

有明海水産資源回復技術確立事業※

ガザミ放流共同高度化試験 (操業状況)

大庭元気

ガザミは、有明海沿岸4県で広域に利用されている重要な漁獲対象種である。漁獲量の増加や資源回復を目的とした試験放流が行われているが、正確な放流効果の算出には、漁獲動向の把握が不可欠である。本試験では、ガザミを対象とした漁業の操業状況調査を行ったので、その概要を報告する。

方法

2020年5月～12月にかけて、佐賀県有明海漁業協同組合大浦支所に所属する、ガザミを対象とした固定式刺し網漁業者15名に、操業日誌(出漁の有無、漁獲尾数等)の記入を依頼し、操業実態として、1日1隻当たりの漁獲尾数(CPUE;尾/日・隻,以下CPUEとする)を取りまとめた。また、年間操業日数の把握は、有明海漁協の各支所へ聞き取ることで行った。さらに、月に1回程度、漁獲物を測定し、平均甲幅長、平均重量を求めた。CPUE、年間操業日数および各月の平均重量を用いて、年間漁獲量を推定した。

結果

CPUEは、水温が低下してガザミの活性が低くなる12月を除くと、調査期間を通して37以上であり、特に秋季の9月に100と最大になった(図1)。秋季のCPUEの増加は、当歳ガニの加入に起因すると考えられる。

操業日数の推移(図2)は、5～8月まで146～234隻/月であったものが、9月から急増し、11月まで575～715隻/月となり、12月には260隻/月と減少した。

各月の漁獲物の平均全甲幅長(図3)は、5～10月は160～178mmであったが、漁獲物中の当歳の割合が高まる11月～12月にかけては167～173mmと小さくなった。

各月の漁獲物の平均重量(図4)は、5～7月にかけて、メスの放卵に伴い234gから212gへ減少したが、その後10月まで成長に伴い301gまで増加した。11～12月には漁獲物中の当歳の割合が高くなることから245～273gの範囲で減少した。

これらの結果から、2020年度のガザミの漁獲量は、約49トンと推定された。

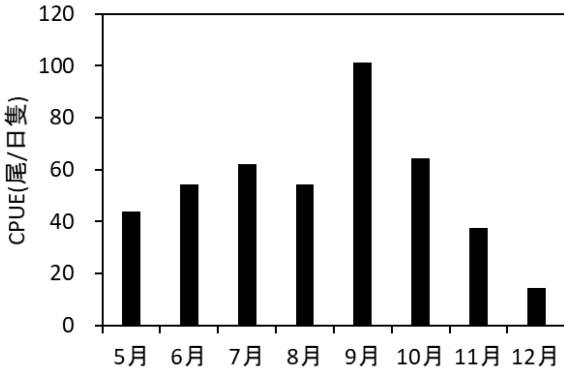


図1 各月のガザミのCPUE

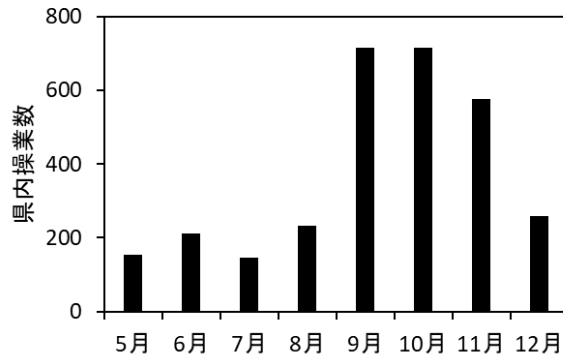


図2 各月の県内操業日数

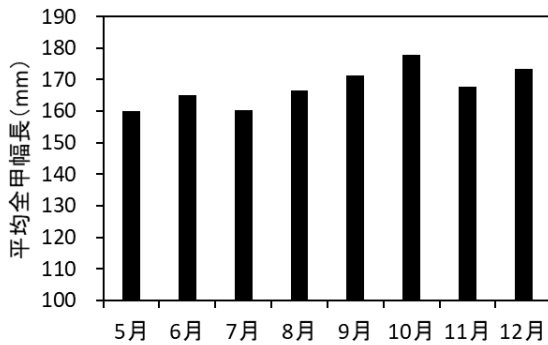


図3 各月の漁獲物の平均全甲幅長

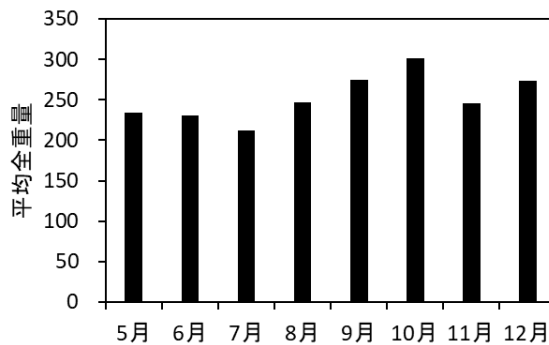


図4 各月の漁獲物の平均全重量

※国庫補助事業名:有明海漁業振興技術開発事業